

環境まづくり 会報

編集・発行/入間市環境まづくり会議

環境まづくりの 行動の輪を広げよう!!

現在
温暖化により
地球の気候が変動し
多くの問題が発生している。



会員証兼
啓発ステッカー

「ごみに係わる行動の会員部会」の 設立経緯

昨年5月の環境まづくり会議の総会後、実施した会員同士の意見交換会において、環境間

入間市環境まづくり会議総会が、6月5日(木)、入間市民会館にて開催された。
多くの会員が参加した総会は、14年度の事業報告の後、収支決算を了承し、15年度事業計画と収支予算の提示があり、原案ど

おり可決した。
15年度の予算は、前年同様、市からの補助金80万円と繰越金約18,000円、約818,000円で各事業を行うこととなった。
本年度の主な事業は、環境展

と生涯学習フェスティバルの参加や、環境ウォーキングの開催。そして、会報の発行回数を年3回とすること、新たに、ごみに係わる行動の会員部会を設置することが決定した。

題にかかわる様々な意見が出されたが、その中でもごみに関する意見が多くあった。引き続き、今年1月、3月にかけて開催した環境市民講座の実施と合わせて、意見交換会を2回実施した。

15年度 入間市環境まづくり会議総会開催

ごみに係わる行動の会員部会設置

テーマは「人間のごみ、今私たちにできること」で、市民生活におけるごみ問題を扱った。参加者は延べ30人程度。

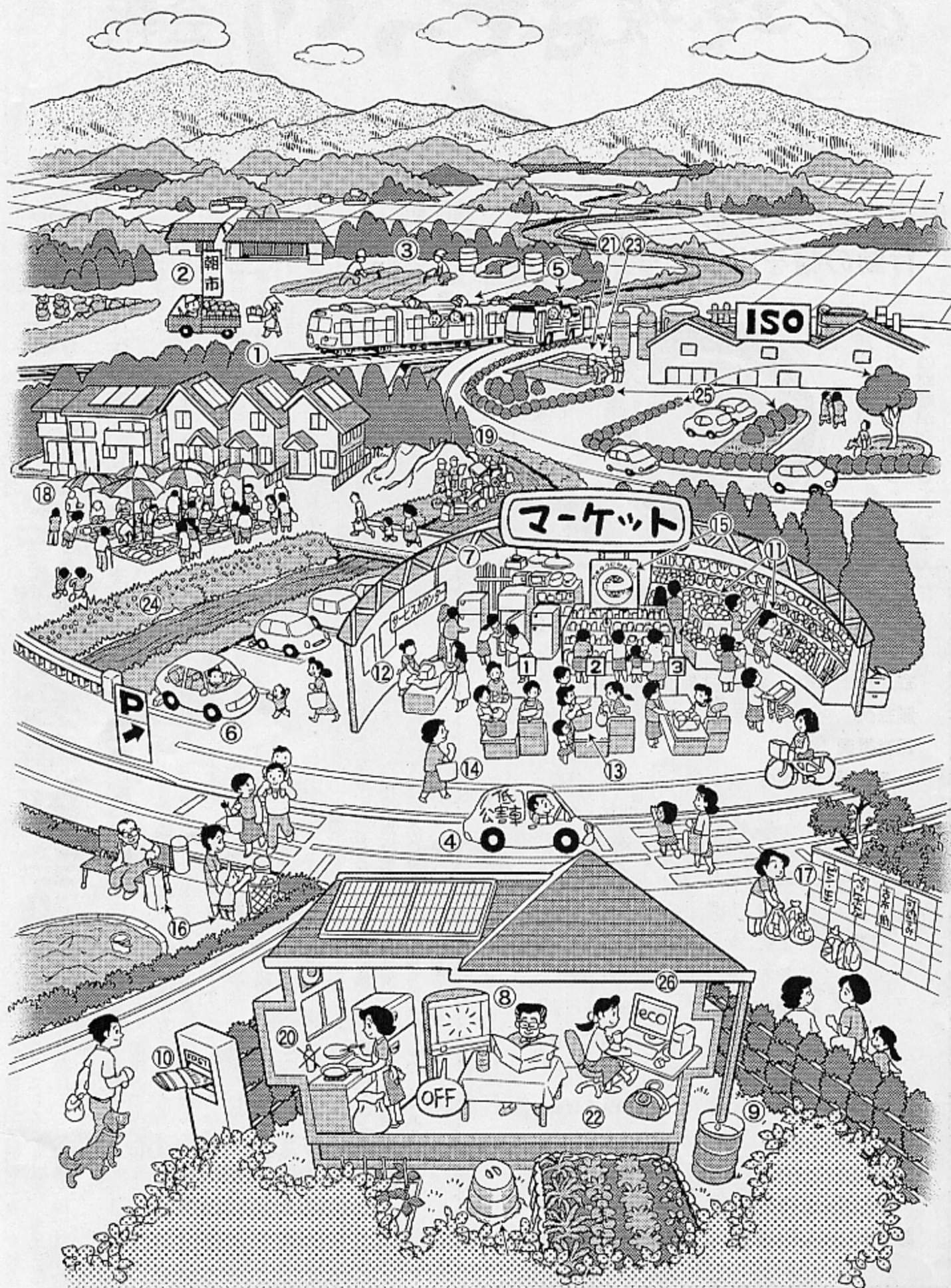
環境市民講座のテーマが「入間市のごみ問題を考える」ということもあって、講座での学習成果も踏まえ、活発な意見交換が行われた。

そうした意見交換の積み上げから、会員同士が一緒になってごみ問題に継続的に取り組めることを求める声があり、今期の環境まづくり会議の総会で事業として議決を得て、「ごみに係わる行動の会員部会」が誕生したのである。

入間市環境まづくり会議役員

会長	岡内 定男 (入間市茶業協会)	
副会長	二ノ宮小百合 (入間市消費者団体連絡会)	
運営委員		
市民	池田 真幸	犬塚 裕雅
	内村 忠久	川村 光雄
	木内 勝司	菅沼 満美
	関町 光雄	武田 恵子
	平田 和雄	松崎 仁子
事業者	上原 栄司 (いるま野農業協同組合入間事業部)	
	鈴木 洋明 (入間市建設協会)	
	関根 栄一 (入間市商業協同組合)	
	谷口 秀男 (入間ガス株式会社)	
	樋口 善久 (入間市工業会)	
民間団体	児玉 任司 (入間市PTA連合会)	
	高野 三良 (入間市連合区長会)	
	樋田 凡夫 (入間市衛生自治会)	
	吉村 直樹 (入間青年会議所)	
監事	大木 昭	八代 瑞穂

環境にやさしい行動メニューをイラストにしました。



街の美化とごみ減量の二分科会発足

第一回ごみ部会開催



「ごみに係わる行動の会員部会」(以下「ごみ部会」と略称)を8月7日、扇町屋公民館大会議室で開催した。参加者は14名、川村運営委員の司会で始まり、岡内会長の挨拶、参加者の自己紹介、事前アンケートの集約、ごみ部会の具体的な行動の論議がなされた。

活発な意見交換の後、ごみ部会が最初に取り組むべき問題は、①街の美化運動、②ごみ減量実行運動の強化の二点を重要な課題として取り上げ、それぞれ担当会員を決めて、各団体・事業体との連携を強化することで一

環境ウォーキング委員会の動き

「本当に住んでいるまちや自然を知っているのだろうか?」この問いかけを、よくよく考えてみる必要がある。環境ウォーキングを通じて地域調査から、今まで見えなかった事が徐々に見えてくるようになるのではないだろうか。それを、自らの行動により環境まちづくり・環境育へと展開し、地域を再生していくことが大切だと考えている。

環境ウォーキング委員会では、前回寄せられたゴミ問題の現状

と行動提起などの意見やゴミ問題だけが環境ではないとの反省を基に、第2回環境ウォーキングの計画について意見を交換してきた。

第2回の環境ウォーキングで行いたいことは、参加した人々が空気を水、緑などの身近なものから、コミュニティ、歴史、文化などのまちづくりに関するもの、ゴミや温暖化の地球環境問題に至るまで幅広く感じ未来を考えることをテーマに提案していきたい。

致した。ついで、部会の責任者選任、組織などを話し合い、責任者には川村運営委員が当たることになった。

今回は、できるだけ早く、関係先との連絡が取れしだい開催することになった。

入間市を綺麗にし、住みやす

環境展に参加して

6月8日(日)リサイクルプラザでの「入間市環境展」に、環境まちづくり会議が参加した。

昨年は、私たちにとって無くてはならない「車」から排出される有害ガス、さらに、車に乗れば発生する二酸化炭素(CO₂)の排出を減らしていくため、超低排出ガスのパンフレット展示をした。

今年、「このままだと地球が危ない!」との地球温暖化防止について、掲示発表させていた。その概要は、日本における排出温暖化ガスの9割がCO₂であり、その9割

このままだと地球が危ない!

「今年、このままだと地球が危ない!」との地球温暖化防止について、掲示発表させていた。その概要は、日本における排出温暖化ガスの9割がCO₂であり、その9割

環境をつくる、ごみ部会に一人でも多くの会員の参加を心より願っている。参加される方は、市役所環境課まで連絡下さい。

がエネルギー使用によること。

京都議定書批准による削減必要温暖化ガスは、現状からは実に14%も削減しなければならぬことなどを主張した。

子供や孫の「生」を考えると、私たちが温暖化についてできることは、

「今すぐ」実行しなければならぬ状況であることを訴えた。

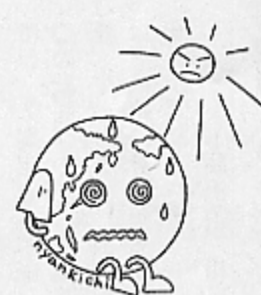
今日・明日の問題でないだけに難しいことです。残されている時間はそう多くないことを、紙面をお借りし再度訴え、環境展参加の報告とする。

●右イラスト内の丸数字は行動メニューの数字にあたる。

環境にやさしい行動宣言は、皆さんが自ら行っている環境に配慮した行動を改めて宣言することです。環境に対する意識をより高める効果や入間市環境基本計画とのつながりを実感したり、仲間と達成感を共有することもできます。

環境にやさしい行動メニュー

- 1 農地や平地林の保全に努めます。
- 2 環境にやさしい農産物の生産や購入に努めます。
- 3 農薬や化学肥料、除草剤の使用を減らします。
- 4 低公害車の導入を積極的に進めます。
- 5 車の使用を極力控え、バスや電車を利用します。
- 6 アイドリングストップを実践します。
- 7 環境負荷の少ない製品の製造や販売に努めます。
- 8 使わないときは主電源を切り、節電や省エネに努めます。
- 9 節水や雨水利用に努め、水を大切に使用します。
- 10 宣伝用チラシは再生紙を使用します。
- 11 環境に配慮した商品の品揃えに努めます。
- 12 商品の簡易包装に努めます。
- 13 レジ袋やブックカバーを断ります。
- 14 マイバッグ(買い物袋)を持つ習慣をつけます。
- 15 なるべくエコマークのついた商品を購入します。
- 16 空き缶やたばこのポイ捨ては絶対にしません。
- 17 ルールを守りごみの分別を徹底します。
- 18 ごみ減量・リサイクル活動などに積極的に参加します。
- 19 廃棄物の排出抑制や適正処理に努めます。
- 20 有害化学物質による汚染を防止します。
- 21 騒音や振動、悪臭の防止に努めます。
- 22 安全な建材の使用に努めます。
- 23 生活や事業活動から生じる排水を適正に処理します。
- 24 丘陵地や河川沿いの緑を大切にします。
- 25 草花を育て、地域や職場などの緑化に努めます。
- 26 情報メディアを利用して環境の大切さを伝えます。
- 27 その他(項目にない宣言でも結構です。)



会員の声

不老川でアユ発見

私は、不老川流域川づくり市民の会に所属し活動しています。

自然にふれあい、自然を大切にとの思いで、毎年、大森調節池で池まつりを開催したりもしています。川の自然を守り保全していくことは、地下水などの関係もあり、街づくりでもあります。

ところで、不老川でアユが発見されました。今年の7月、確かにアユが遡ってきたのです。ただし、川越市の東上線の辺りですが、昔、40年前頃はいたが、今はいるはずがないと思われる人が大部分だろうと思います。そう思われるのが当たり前で、

つい20年前は全国一汚い川（BOD100以上、アユはBOD7程度でも棲む）で、生き物の全くいない川だったので、しかし、入間市の不老川でも、大森調節池から下流ではフナ、クチボソ、メダカ、ドジョウ等が夏期は見られるようになりました。これは、下水道の普及と流域住民や行政の努力によるものと考えられます。

しかし、冬期になると全くなくなり、夏期は40年前の状態、冬期は20年前の状態になると言うことで、現在は長年の変化を一年で見られるわけです。ただし、全く同じと言うわけではありません。40年前は冬期は水がないから魚が棲めなかったが、現在は水はあるが、その水が汚れているから棲めないと言うわけです。

現在埼玉県では、10年後の不老川をどのような川にしようかと計画づくりを始めています。「不老川流域川づくり市民の会」

では、入間市とも相談しながら、この計画づくりに積極的に参加をしております。興味のある方は、一緒に計画づくりをやりませんか。

下藤沢 相馬 和彦

環境について

小学校では、朝、ゴミを拾いながら登校する活動を行って来た。ところが、ゴミを拾って来たのはわずかな人達だけだったので、何回か行った後、その活動はなくなりました。

今、このことを考えてみると、多くの生徒が自分の捨てたゴミではないから関係がないという考えでいたり、ごみで地球が汚染されていくことを真剣に考えていないのだと思います。

しかし、他の学校ではピクトップを作ったり、ボランティア活動をしたり、めずらしい植物や動物の保護活動をしたりしているそうです。そして、その学校の近くでは、実際に動・植

物が絶滅しかけている場所が多いと聞きます。一度絶滅した動・植物はもう蘇ることはないで、自然がなくなってしまうので、自然がなくなってしまうのは手遅れになってしまいます。だから、自然がなくなってしまうのは、自然がなくなってしまうからではなく、なくなってしまう前に保護していくことが大切だと思います。

今、中学校では様々な環境問題について勉強しています。酸

性雨やオゾン層の破壊については、フロン等の化学物質や二酸化炭素、工場の煙などが主な原因です。現在の状態では、これらの原因をなくするのは不可能ですが、減らすことならできます。だから、皆で協力して今あるエネルギーを節約し、地球に有害な物を減らせば、未来にはきれいな地球に戻っていると思います。

下藤沢（中一）
菅沼 伶央馬



編・集・後・記

環境教育に使ってください。「環境・ごみかるた」

リサイクルプラザで活動している、リサイクル研究室市民ボランティアが、小中学生向け「環境・ごみかるた」を製作いたしました。

こんなことも知ってほしいという願いから、と思う気持ちが多いですが、読みにくい内容もありますが、読み札には解説もついています。ご希望があれば貸し出しもいたしますので、リサイクルプラザ（TEL93415324）までご連絡ください。

皆さんはじめまして、今年度より副会長を勤めさせていただきますとともに編集後記も担当することになりました。まだまだ若輩者ですが皆さんと一緒に環境について考えていきたいと思っていますので、ご意見、ご要望をお寄せ下さい。

二ノ宮

入間市環境まちづくり会議

事務局：入間市役所環境経済部環境課
住所：〒358-8511 入間市豊岡1丁目16番1号
TEL：042-964-1111(内線1241,1243)
FAX：042-965-0232
E-mail：kankyo@city.iruma.saitama.jp

●会員数(平成15年8月現在)

410人	市民	162人
内訳	事業者	171人
	民間団体	50人
	行政関係	27人



R100 この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。